



南の光明

The Catholic Diocese of Naha Newsletter

今年の教区の目標
 求めよう、神のちむがなさを！
 守ろう、沖縄における人権を！
 探そう、真の平和への道を！

〒902-0067 那覇市安里3-7-2
 カトリック那覇教区本部
 TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474
 発行人 W.F.バートン司教 1部40円
<http://www.naha.catholic.jp/>

(1) 2019年6月1日 (毎月1日発行) カトリック那覇教区報 MINAMI NO KŌMYŌ 第727号 (6月号)

六月はイエスのみ心の月です。

一八五六年、教皇ピオ九世はイエスのみ心の祭日をご聖体の祝日後の金曜日に全世界で祝うよう定められました。ご聖体とみ心の祝日がおおよそ六月に当たる経緯から、次第に六月が「イエスのみ心の月」として定着したようです。

イエスのみ心への信心は、キリストの真の弟子として、キリストの呼びかけにこたえ、キリストを知り、愛し、従うことへの献身です。

イエスのみ心への信心は、初代教会の教父たちの、イエスのわき腹の御傷への信心にそのはじまりをうかがい知ることが出来ます。この御傷への信心は、やがてみ心への献身へと導かれました。そして御血と水が流れ出たこの聖なる御傷から、教会と秘跡が生まれました。御血はご聖体を、そして水は洗礼を象徴しました。聖エンブローズが「水は私たちを洗い、御血はわたしたちをあがなす」と言ったように、これまで多くの聖人と神秘家たちが、イエスのみ心から多くのなぐさめと力を得てきました。古代から現代に至るまで、み心への信心は受け継がれています。

現代のイエスのみ心への信心は、十七世紀の聖女マルガリタ・マリア・アラコックによって伝えられました。

た。聖マルガリタ・マリア・アラコックは一六四七年七月二十二日、フランスブルゴーニュ、ロートクールで生まれ、一六七一年にパレルモニアの聖母訪問会に入会しました。敬虔なシスター、マルガリタ・マリア・アラコックは熱心な祈りと苦行を重ね、神の特別な恵みを受けました。御聖体の前で祈りをささげていたシスターマルガリタは、ある日イエスの御出現を受けたのです。イエスは言いました。「わたしの神聖なみ心は、これほどまでに人々への愛に燃えている。このいつくしみの炎を、もはやとどめておくことはできない。このみ心の愛の炎はあなたによって広められ、明らかにされねばならない。人類を高め、清めの恵みと彼らを破滅から引き上げるに必要な救いを。わたしはこの偉大な計画のためにあなたを選んだ」と。こうして聖女を通してみ心の信心は広められてきました。

教会がイエスのみ心に特別に心を向けるのは、キリストが私たちの罪をつぐない、救いの喜びで満たすために、御血の最後の一滴までも流し尽くされる程に、私たち一人ひとり愛された無限の愛の象徴と見るからです。

聖書を読んでも、十字架のキリストを眺めても、あまりにも大きな痛みと苦しみのために、キリストの愛が心に入ってこない。また、人の愛が信じられないがために、神の愛も信じられない。

十字架のキリスト像は神の愛を示すものとして私たちに与えられたものです。しかし愛の冷えた時代には、この像は、神の愛を示すものである代わりに、自己犠牲の要求の大きさや突きつけて、見ていて苦しくなる人がいるのかもしれない。

十字架上のキリストの愛は、ある意味で究極の愛であり、極限の愛です。しかし現代人が自己を支えるために必要としているのは、もつと身近な日常的な愛であるようです。つまり、罪を取り除いて永遠の命を約束してくださった十字架だけではなく、日常的に暖かい目で私を見つめてくださっているキリストの愛も必要になってきた。不安があらゆる人を覆うようになってきた時代なのかもしれません。

聖書に記されたキリストによる神の愛を理解するために、現代に生きる私たちの助けとして「イエスのみ心の信心」が示されたのではないのでしょうか。私たちはイエスのみ心を通して、再び聖書のキリストに結ばれてゆくのです。祈り、黙想しながらイエスのみ心の月を過ごして参りましょう。

第33回カトリック那覇教区 平和巡礼 <巡礼コース>
 *ご都合に合わせて途中参加できます。

2019年6月23日(日) 沖縄慰霊の日

ミサに参加される司祭、助祭はストラをご持参下さい。

小祿教会 聖堂 6:00 ミサ (ウェイン司教司式) 7:00 出発	4.5km	翁長 コンビニ前 8:10 集合 (証言と祈り) 8:30 出発	4.5km	グループホーム 千寿 9:40 集合 (証言と祈り) 10:00 出発	4km	ひめゆり 駐車場 11:00 集合 (証言と祈り) 11:20 出発	2km	魂魄の塔 11:50 集合 (平和の集い、司教メッセージ) 12:30 解散
---	-------	---	-------	--	-----	---	-----	---

※多少時間がずれることが予想されます。※解散後の帰路は各自で確保をお願いします。

問い合わせ先 カトリック那覇教区平和委員会 稲福 090-1949-6569

Share the Journey

Last September 27, 2017 our Beloved Pope Francis launched the “Share the Journey” campaign of Caritas to make a positive change to community and strengthen the bonds of the human family. Share the journey campaign aims to bring migrants and refugees closer together with communities by creating more spaces and opportunities for them to come together and share stories and experiences.

Our Beloved Pope encourages us to combat the “culture of indifference with the culture of encounter. In line with this is the photo exhibit launched by Caritas Japan an awareness campaign participated by

16 dioceses. This June 16–July 14, for five consecutive Sundays, it will be display at the designated Churches namely, Shuri, Maehara, Kainan, Yomitan and Asato Catholic Church. And on July 8-12 it will be display at the Catholic Bunka Center. Please feel free to visit the Churches based on the schedule written on the poster and if you can put your prayers, comments, suggestions on how we can share the journey in the paper provided would be a great help to the two major committees Caritas Japan and Migrants, Refugees and people on the move in answering the call of our Beloved Pope Francis to Share the Journey.

Caritas Japan
排除 ZERO キャンペーン リレー写真展

リレー写真展 那覇教区 開催日程
“Share the Journey” Photo Exhibits
2019/6/16 (日) ~ 2019/7/14 (日)

6月16日	首里カトリック教会	Shuri Catholic Church
6月23日	真栄原カトリック教会	Maehara Catholic Church
6月30日	開南カトリック教会	Kainan Catholic Church
7月7日	読谷カトリック教会	Yomitan Catholic Church
7月14日	安里カトリック教会	Asato Catholic Church

共催：カトリック那覇教区 問い合わせ：Mercy Cristibal (カリスジャパン那覇教区担当員)
カトリック中央協議会 カリスジャパン 130-8185 工業団地東1-10-10 日本カトリック会館

A Joint Project of the Diocese of Naha Caritas and SLRC Pastoral Care for Migrants

Caritas Japan カリスジャパン Share the Journey Photo Exhibit Launching

Theme: *Encountering and Journeying with Jesus within Cultures.*

Where: Shuri Catholic Church

Shuri Catholic Church Address:
Naha City Shuri Sakiyama Cho 4-60
963-0814, Okinawa Japan
Tel. 098-884-4787

Where: June 16, 2019

What: 16:00-17:00 Holy Mass
17:30-18:00 Snacks

Stories of faith journey by different sharers.

このキャンペーンに関してもっと意識を高めるために16教区の協力をいただき写真展を行います。那覇教区では6月16日から7月14日、にかけて日曜日に5つの教会（首里教会；真栄原教会；開南教会；読谷教会；安里教会）で、7月8日から7月12日（平日）にはカトリック文化センターで開きます。皆様のご感想もいただければ大変役に立つと思います。写真を見ながらどんな小さな事でもこのキャンペーンの目的のためになると思いますのでご協力を宜しくお願いします。

Naha Diocese Up- Coming Events:
Walk for Peace: June 23, 2019(Irei No Hi)
6:00 a.m. Mass at Oroku Catholic Church
7:00 a.m. depart from Oroku Catholic Church to Himeyuri Memorial Park.

2019 Summer Camp Schedule
July 28, 2019 General Cleaning at Mission Beach
July 29-31, 2019 Elementary Graders Camp
August 8-4, 2019 Junior and Senior High Camp



(御体と御血)

キリストの聖体の祭日

サニー・カンティラーノ神父

具志川教会 主任司祭



私たちは、精神面、身体面、感情面、そして霊的な面に、命のバランスを保つため、自分を養うべき必要を思い起こします。

を葡萄酒という形状で、主ご自身を受け取り、記憶に留めます。御父への従順の内に同じように行い、私たちはイエス様を記憶に留めます。

る儀式に私たちが参与していることです。現在、人々は、愛とその保証を、探し求め続けています。なぜ、愛の創始者である神様ご自身に、問わないのか。私たちの心に、愛すること、愛されることの必要を刻まれたのは、神様です。

けることになるでしょう。御ミサをいつも休むなら、自分の霊の力を、私たちはどこから引き出すことができるのですか？

祝された秘跡の、聖ペトロ・ユリアン・エイマードは、御聖体を次のように表現しました。「御聖体は、福音伝道すべての真情と源泉である。また、私たち人類の聖なる贖い主の、究極の愛の著しい表現が、御聖体である」

一、記憶に留める行為

聖体が聖別されるべき目撃者となる、その時はいつも、私たちはイエス様ご自身を記憶に留めます。イエス・キリストは次のように告げられました。「わたしを覚えてこれを行え」。私たちが行えと命じられたように、イエス様を強く記憶に留めます。イエス様が、私たちの霊に、語られた御言葉の中に、イエス様を深く記憶します。

この地上の命の始まりから、御父のもとに帰られるまで、イエス様は、私たちが永遠の御国の一員となることを、絶えず考慮されました。

この方は誰なのか、苦しみ、死なれた方。神様がそれほどまでに心に留めておられる方。すべてその理由は愛です！

御聖体は、愛の行為です。私たちの救いのために、命を与え、差し出すという以上の、道はあり得ません。今日、私たちが認識をしていますが、していても、なくても、御聖体の祭儀に与ることに、私たちは神様の愛を受け取っています。イエス様は私たちが愛するゆえに、裁判を受け、死の宣告を受け、復活されました。

三、御聖体のうちに、参与する行為

六月二十三日は「キリストの聖体」の祭日です。この秘跡は、私たちカトリック信者のため、主によって制定され、また慎重に意図されているものです。私たちの体に、栄養素として食物を取り入れるように、私たちは魂のために、御聖体を食べることが必要です。この祭日に、

御体をパンという形状で、御血

ちが存在することは、愛の光栄あ

†ちむがなさ

先般、故バルトロメオ・ミンソン神父様の追悼ミサに際しましては、多くの皆様にご参りいただき大変ありがとうございました。追悼ミサの後、ご遺骨は小祿教会に併設されたカプチン会の納骨堂に納められ、バルト神父様の弟さんと甥子さんも大きな役目を無事果たし終えた安堵と共に、バルト神父様が関わった沖縄の地で、多くの慰めと感謝に満たされて帰国の途に就かれました。

皆様から寄せられましたご花料は、生前バルト神父様が特に力を注いでこられた青少年の育成のためにお使いくださいというご親族と修道会の意向に鑑み、那覇教区青少年の育成に役立てさせていただきます。ありがとうございました。

先に召されたバルト神父様ほか、多くの宣教師たちが私たちのためにお祈りくださっています。私たちもその祈りに応えて、神様のみ旨の道を共に歩んで参りましょう。

2019年6月

那覇教区長ウエイン・F・バートン司教

三女の聖羅は、奉獻生活の道を選択し歩み始めた。シヨファイエユの幼きイエズス修道会へ志願期、修練期の三年間を通し、皆様のお祈りに支えられ今年三月二十三日に初誓願宣立の恵みを頂いた。私達家族からシスターの召命のお恵みを頂き、感謝と喜びを皆様と共有したい。誓願式には、沖繩から二十七名が参列して下さい。そもそも私達所属の泡瀬教会は、初代よりシヨファイエユの幼きイエズス修道会のシスター方にお世話になっている。その縁は大きい。聖羅は、専門学校卒業後、設計の仕事に希望をもって一生懸命働いていた。その後、転職し調理関係の仕事で楽しく頑張っていた。

その言葉がずっと耳から離れず、いつも彼女の中に囁いていたように。初誓願式は、前田万葉大司教様はじめ、ご参列の神父様共同司式による荘厳な宣立式ミサとなった。その時、前田万葉大司教様から、「曾根聖羅」の名前が素晴らしいと意味深い話をされた後、『幼子の如く聖羅やお告げ祭』と記念の俳句を色紙で頂いた。そのお言葉があまりにも心に響き感動の涙が止まなかった。

たて軸よこ軸 娘が自ら選択した道について考える

泡瀬教会 曾根ルチア

修道会への志願は自らの決断だが、祖父に喜んで貰った気が強かったとは言え、はつきり言うとは神様が喜ぶ生き方を選択したのだろう。三年間の課程は決して甘いものではなかったと思う。志願期を共にした仲間が辞退した時は、大きな動揺もあった。しかし、それは本人自身の識別する学びの体験になっただろう。また不思議な事に彼女の行き先々にはいつも知人が存在していた。落ち込む時程、それは偶然とは思えない御助けのお恵みであった。

道が開かれ安全にいつも守られるように祈るが、その過程で重大な事に気づいた事がある。沢山の方々の祈りによって支えられている事と具体的な祈り方である。私達は、毎週ミサの共同祈願で召命の祈りを唱えている。しかし、この祈りの対象は誰なのか？身内である我が子？それとも他の子？皆さんは、神父やシスターの誕生を本気で考えて祈っているのでしょうか？

正直な話、対象となるものを考えることなく祈っていた事は無意味ではないかと思つた。祈りが実際に聞き入れられるには具体的意識が必要だと思つたのである。娘が修道者を目指して誓願式に至るまで我が子の召命を本気で祈った。召命を願う祈りは、具体的な対象を願って祈る事が重要ではないかと思つた。なぜなら、祈りには目に見えない力があるからだ。私は物心がついた頃より両親の祈る姿や教会中心の習慣があつたからこそと考える。教会は決して完璧な人々の集まりではないというのもしつかり心得られるようになった。そして、自分も含め罪人であるのを自覚し、許しを求める人々の集まりとも知つた。キリストの教えは謙遜を学ぶ集いである事を理解できたのも、最近である。しかし、両親が帰天し、兄弟姉妹はそれぞれ社会人として独立し、独自の環境の影響の中で信仰は試される。父が遺した家系図より、信徒歴は慶長十五年（一六一〇年）から継承四〇九年の経過を辿り、七代目に続いている事実を知り誇りに思っている。カトリック信者としての信仰の恵みに感謝と共に、今後も子孫へ継承されるよう祈らずにはいられません。ガンジーは、社会的罪の七番目に「献身なき信仰」について語っている。それは愛（自己犠牲）なき信仰は意味がないと捉える。信仰に生きるように招かれた私達は常に「意識的に」「行動的に」ミサに参加し、キリスト者として生きるとはどういうことなのか、自らの行いと言葉によって信仰態度を表すために感謝をもって過去を振り返り、熱意をもって今を大切に信仰（愛）に生きる。希望をもって来世へ向かう。人生は神様のご計画のもとで起こされた出来事だから、互いに祈りながら愛をもって歩みましょう。

2019年5月拡大司祭・助祭会議議事録

開催日時：2019年5月7日(火) 10:00～12:30 開催場所：教区センターホール(安里教会)

1. 報告及び連絡事項

- ・前回(4月会議)の議事録に沿って新田が報告と確認。
- ・会議に先立って、ウェイン司教より、異動のあった司祭たちにスムーズな異動への協力に感謝が述べられた。また、司教館は安里教会主任フランシス神父が司教館長を兼務して、稲国神父、ラサール神父、押川司教とウェイン司教とで共同体を作ることが報告された。同時に、福岡教区長、宮原司教の辞任についても報告があった。
- ・司会のクレーバー神父より司教と司祭の休暇、会議、研修会等の不在予定を報告。
- ・各小教区の復活祭についての報告。それぞれの小教区から主任司祭たちが受洗者と復活祭の様子が報告された。
- ・FABC会議に参加した押川司教より、ラジオ・ベリタス・アジア50周年の活動と祝賀会の様子が報告され、多年に渡る協力に、日本の司教団も感謝状を頂いたことが報告された。
- ・バルト神父追悼ミサは、5月12日(日)午後2時から安里教会で行われる。遺族の方々がその日に帰路に就くため、ミサの後は小祿に移動して納骨式を行い、小祿で少し休憩してから空港へ送る予定であること等が報告された。
- ・ドン・フリオ・エンディ赤嶺大司教(ブラジル サン・パウロ ソロガバ大司教区、沖縄3世)と70名の巡礼団の那覇教区訪問について。6月2日(日)午前9時から、安里での主日のミサに参加される。
- ・日本語の学習について。主任司祭たちが幼稚園の園長や主任として働くためには日本語のレベルアップが求められる。また4月からの入管法の改正に伴い、日本語検定の1級保持等を条件にビザ発給の特典が設けられ、更新もスムーズに行われるようになったため、司祭の中から日本語力アップのために勉強することを希望する者には、教区として資金援助をする予定であることが津波古事務局長より報告された。生涯養成の一環として日本語検定へチャレンジをお願いすると共に、特に御言葉に仕える者としてことばを生業とする司祭は、日本語の更なるレベルアップを生涯目指していただきたい旨、司教からも要請がなされた。
- ・6月10日から～14日にかけて行われる3教区合同司祭黙想会について。今年は大分教区で開催され、那覇教区からは出張中のウェイン司教に代わってクレーバー神父が出席し、教区司祭、終身助祭、合計20名の出席が予定されていることが報告された。
- ・6.23慰霊の日の平和巡礼は、主日に当たるため参加者が少ないことも予想されるが、教区平和委員会を中心に、例年通りに行われるよう準備が進められていること、鹿児島教区の中野新司教と福岡コレジオの神学生たちも参加予定であることが報告された。また、参加できない場合でも、各教会で共に祈りを捧げていただくよう要請があった。
- ・カリタス・ジャパン排除ゼロキャンペーンのリレー写真展についてマーシーさんから説明が行われた。那覇教区でも6月16日～7月14日まで、5つの小教区と文化センターで写真展を開催することが報告され、ポスターを全小教区に配って掲示するよう要請があった。
- ・ウェイン司教から石垣での司教訪問を踏まえ、病人訪問や各小教区が取組んでいるあれやこれやに、司教も一緒に参加させて欲しいとの要望があった。

2. 審議事項

- ・マーシーさんより2019年度の教区予定表が配られ、記載漏れや追加等の確認作業が行われた。
- ・司教予定表にサマーキャンプが追加された。7月28日(日)大掃除、テント設営。7月29日～31日小学生キャンプ。8月1日から4日中高生キャンプ。8月4日(日)キャンプの後片付け。
- ・カテキスタ及び終身助祭養成プログラムについて。宮古や石垣からの参加予定者について教区として交通費等の補助を検討すること、また参加を希望する者は主任司祭の推薦が条件であるので、司祭たちの積極的な呼びかけへの協力が依頼された。
- ・サマーキャンプについて。担当のヨアキム神父より、5月19日(日)の午後2時からエマオユースセンターで最初の会議を持つので、青年たちだけでなく、司祭、信徒の皆さんにも協力をお願いしたい。会議の中でテーマやプログラムを作っていくこと等が報告された。
- ・先月に引き続き、各小教区の司牧評議会(教会法第537条)と経済問題評議会(同第536条)についての分ち合いが行われた。今回は各小教区の司祭たちに意見と報告が求められ、司祭たちの分ち合いが行われた。生き生きとした教会を作っていくために、このような分ち合いをさらに続けていく意向であることが司教から報告された。
- ・6月の司祭会議はウェイン司教が出張のため不在となるが、6月4日(火)10:00～12:00教区センターにて予定通り行われることが報告された。

2019年5月15日

記録:新田 選

承認:ウェイン・フランシス・パント司教



那覇教区平和委員会



4月例会の報告

朝鮮半島独立運動とカトリック教会

4月の平和委員会の例会は28日(日)、那覇教区のウェイン司教を講師としてお迎えした。演題は「朝鮮半島3.1独立運動100周年を迎えて」。

ウェイン司教は、韓国カトリック司教協議会会長キム・ヒジュン大司教が2019年3月1日に、「3.1運動と大韓民国臨時政府樹立100周年」を迎えてのメッセージを引用して講話をはじめられた。大司教は、「3.1運動精神の完成は真の平和」であると位置付けた。そして100年前に多くの宗教者が独立運動に参加した歴史的事実に触れ、我がカトリック教会がその歴史の現場にいなかったことを告白された。

大司教は当時のカトリック教会の状況を次のように述べている。「朝鮮王朝後期における過酷な迫害を経験して、ようやく信仰の自由を得た韓国カトリック教会は、当時、困難で骨の折れる時期を過ぎました。それゆえ、外国の宣教師で構成される韓国カトリック指導部は、日帝の強制併合に伴う民族の苦しみと痛みについても、教会を維持して信者を保護しなければならないという政教分離政策を掲げ、開放を宣言しなければならぬ使命を無視したまま、信者の独立運動への参加を禁止しました。後には、信者に日本の侵略戦争に参加することや神社参拝を勧告することまでしました」と述懐している。

100年前に出された「宣言書」は、「私たちの国である朝鮮国が独立国であること、また朝鮮人が自由な人間であることを宣言する」ではじまり、「人類が平等であることの大切さを明らかにし、……民族が自分たちで自分たちのことを決めていくという当たり前の権利を持ち続ける」ことを訴えている。当時の朝鮮国の状態は次のようであった。「私たちが先祖代々受け継ぎ、行ってきた仕事や生活を遅れたものと馬鹿にし、私たちのことを、文化を持たない民族のように扱おうとしている。彼らは征服者の位置にいることを楽しみ喜んでいる。

彼らは、私たちが作り上げてきた社会の基礎とこれまで受け継いできた大切な歴史や文化の財産とを、馬鹿にし、見下している。」誇り高い朝鮮民族にとって、私たちの想

像が及ばないほど屈辱的だったことだろう。

ウェイン司教は今年の教区年間目標に「求めよう、神のちむがなさを！ 守ろう、沖縄の人権を！ 探そう、真の平和への道を！」と掲げた。その彼には朝鮮半島の状況は、構造的差別に苦しんでいる沖縄の問題、すなわち沖縄の人権問題に重なって見えたことだろう。ウェイン司教は「南の光明」の先月号で次のように述べている。「日本の中で最も疎んじられ、虐げの場とされた沖縄の地とそこに住む極めて福音的な精神に満ちた琉球列島の住民こそは、現在に至るまで自己決定権を奪われ、小さくされた者として神の助けを求めつつ、神がお与えになった人権を神ご自身が守ってくださるといふ福音の発言者となるよう招かれているのだと思います」。

日本はかつての大日本帝国が行った、侵略戦争と植民地支配によってアジアが被った膨大な被害の実態を自省することがない。それどころか、歴史に真摯に向き合っている歴史家を自虐史家と揶揄する。その典型的な例が南京大虐殺という「歴史の事実」を捏造だと強弁していることだ。戦後70年司教団メッセージで、司教団は次のように述べている。「過去の戦争の記憶が遠いものとなるにつれて、日本が行った植民地支配や侵略戦争のなかでの人道に反する罪の歴史を書き換え、否定しようとする動きが顕著になってきています。そして、それは、特定秘密保護法や集団的自衛権の行使容認によって、事実上、憲法九条を変え、海外で武力行使できるようにする今の政治の流れと連動しています」(戦後70年司教団メッセージ平和を実現する人は幸い～今こそ武力によらない平和を)。

この拙稿の結びとして、同じ司教団メッセージの次の言葉を引用したいと思います。

「日本の中で特に深刻な問題は、沖縄が今なお本土とは比較にならないほどの多くの基地を押しつけられているばかりか、そこに沖縄県民の民意をまったく無視して新基地建設が進められているということです。」

(平和委員会 稲福捷夫)

教区 NEWS 教会

平和の殿堂 カトリック開南教会

開南教会

当教会は今年で新聖堂建立四十周年を迎えました。開南の地は一九四九年、故レイ司教様が沖繩における福音宣教の拠点として、聖マリアの汚れなき御心に奉獻なさった由緒ある地です。

いつの日か理想的聖堂をこの地に建立したいとの故レイ司教様の御遺志に添い、「平和の殿堂を我等の手で！」を合言葉として携えた信者の夢が実現し、遂に一九七九年五月六日、新聖堂をマリア様の汚れなき御心に捧げることができました。

当時、十数年に亘って信徒と共に幾多の困難を克服された有馬神父様は、開南教会から異動された後も、毎年記念日には開南教会をそと訪れ、感謝の祈りを捧げておられました。あの年のその日、教会で偶然神父様にお会いした時、「今日は大切な記念日ですね」と笑顔で声を掛けられて、「？」意味が分からず、後日ある方から教えてもらいとても恥ずかしくなりました。

今年特別に信徒会長が五月五日(日)のミサのお知らせで「明日は新聖堂建立四十周年です。幸いに公休日でもありますので、六時半の朝ミサで有馬神父様と共に感謝の祈りを捧げましょう」と、ミサへの参加を呼びかけました。早朝にもかかわらず約四十名が参加しました。

その後、朝ミサのメンバーとシスターが一緒になってモーニングサービスを用意しました。持ち寄った一品料理が食卓を飾り、有馬神父、古川神父の二人を囲んで、思い思いの話に花が咲き、楽しいひと時でした。

神様は四十周年の記念日に、素晴らしいプレゼントを用意してくださいました。ひとつは五月六日が月曜日なのに公休日、もうひとつは有馬神父様が名誉司祭として開南教会に異動になり、この日の感謝ミサを古川神父様と共に司式されたことです。

ミサ中の説教台にお立ちになり、建築に関わる話しを、具体的な数字も含めながら、心に焼きついた思い出の映像を、自ら思い起こすように次々と話されました。

話しを聴いて、久しぶりに開南教会創立五十周年記念誌「かがりびーさあ種を蒔こう」を手にとって見ました。「初心忘る

べからず」、二〇〇二年に発行された記念誌を新たな思いで読み進めるうちに今を忘れ、タイムスリップして楽しくなりました。貴重な記念誌はこの教会にもあります。たまの記念日に記念誌を引つ張り出して、若者たちと昔の話をしたり、今はどう思う?とか、楽しく話し合う良き時なのかもしれません。

「かがりびー」三ページの文をここに記し、若者たちに伝え継ぎたいと思います。「ローマから帰任したばかりの有馬神父に、これまた東京カテドラルに刺激された渡名喜信徒会長は、『誠の平和の殿堂は沖繩にあつてこそ意義がある。第二次世界大戦を最終せしめた名誉ある地であり、世界地図の上でも、やや中間に位置するが故に、沖繩にもカテドラルを建築すべきである』と喰い下がった。(瑞慶山美登里)

幼児洗礼式

コザ教会

当教会では、二〇一九年三月二十三日(土)午後二時から新垣助祭司式により幼児洗礼式がありました。受洗者は上江洲安男さんとコニーさん夫妻の孫の上江洲祐月ちゃん(三才洗礼名 ジョセフ)と金城颯ちゃん(一才、同パウロ三木)です。

当日の福音書はマルコ一〇章一三〜一六イエズスと幼子たちで、「子どもたちは、大人よりも神の国に近い」という内容でした。ニュージールランドやフィリピン、アメリカオレゴン州からも親戚が駆けつけ、総勢三〇名余が参加しました。また颯ちゃんが三月一日に満一才の誕生日を迎えたことから誕生日を同時に祝い二重の喜びに包まれました。神に感謝!(金城愛子通信員)

宗派を超えて集い 新垣王敏氏作品に感動!

コザ教会



新垣王敏氏

当教会五十周年記念イベントの最後を飾る「作曲家新垣王敏氏の講演会・コンサート」が五月十九日午後二時よりコザ教会聖堂で催されました。ヴォーカル・アンサンブルG4(新垣哲夫・塩浜康雄・宮城敏・照屋寛八・ピアニ宮城佳代子)の皆さんによって金子みずぶ合唱曲集「こだまでしょうか」より四曲が歌われ、兼嶋麗子氏、石垣真秀氏の独唱、教区聖歌隊カント・カトリカ(指揮石垣陽一郎・ピアノ砂川聖子)の合唱などがありました。歌われた曲は全て新垣氏の作曲でまたその大半は作詞もされています。



新垣王敏氏は一九三八年フィリピン・バナイ島イロイロ市生まれで沖繩県うるま市出身、一九六八年国立音楽大学作曲科卒業、その後

尚美学園講師、お茶の水女子大学講師、白百合女子大学教授、東京神学院講師、東京純心大学特任教授などを歴任され、これまで多くの作曲、作詞をなさっています。「沖繩語の『ちむぐるさん』は『苦しんでいる人』や『困っている人』が目前にいると思わず手を差し伸べずにはいられない神の愛に通ずる言葉である。押川司教様から那覇教区の歌となるような賛歌が欲しいと言われたときこの言葉がまず浮かんだ」ということで出来た歌『ちむぐるさん 主の御心』も披露されました。

会場にはこの会をもつきっかけになった日本キリスト教団の林利行牧師や高江洲義矩・英子ご夫妻、信者の皆さんも多数参加なさり、「同じキリスト者として神を讃美する集い」を実感致しました。「みんな違ってみんないい」この会の中で何度も耳にした言葉はまさに

神様の愛、包容力を感じます。

神の愛に満ちた詞を美しい曲にし
てくれる新垣壬敏氏を世に送って下
さった神様に感謝します。またそれ
を声高らかに歌って下さる声楽家や
カンタ・カトリカ力の皆さん、伴奏の
方々がいらつしやるといふことは何
と喜ばしいことでしょう。

最後は参加者全員による「ごらん
よ空の鳥」「マラナタ」の聖堂に響き
わたる大合唱で終わり、どの顔も神
を賛美する喜びに満ち溢れ、感動の
うちに終了しました。



聖家族に倣うコザ教会が、五十周
年を記念して「聖家族賛歌」を新垣
壬敏氏に作詞作曲して頂いたことを
改めて感謝致します。これまでコザ
教会五十周年記念行事ご協力、参加
して下さいました那覇教区の信徒の皆様
ありがとうございました。

(松堂康子通信員)

2019年度 那覇教区女性の会総会

日 時：2019年6月9日(日) 午後 2 時

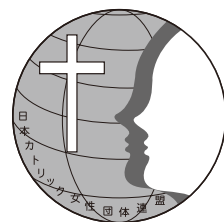
場 所：カトリック安里教会ホール

講 話：『人の命と尊厳』

講 師：クレーバー・デソーザ神父

(カプチン・フランシスコ会司祭、教区女性の会祭指導司祭)

***** たくさんの方のご参加をお待ちしております。*****



計 報

◆泡瀬教会

ガイ 新垣 宣一様

二〇一九年四月二十一日帰天享年八十五歳

◆開南教会

アンナ・マリア 平良 澄子 様

二〇一九年五月十二日帰天 享年九十歳

NPO 法人ぶどう園の会



訪問看護ステーションクララ

TEL&FAX:098-937-5001

住所 沖縄市泡瀬2丁目37-15

・基本受付 月曜日～金曜日(申込、相談など)

・営業時間 8:30～17:30

・営業日 24時間365日(緊急対応含む)



「パードレ・ピオの集い」開催

日 時：2019年6月24日(月) 午前10時～午後2時

場 所：カトリック普天間教会

指導司祭：ペトロ・ヴォン・エッセン神父(カプチン会)

弁当持参(当日20個くらい弁当の準備ができます)

連絡係：屋宜留美子(普天間教会) 090-6857-7321

比嘉須賀子(首里教会) 070-5813-2557



葬祭の 「やすらい企画」

私たちは故人とご遺族の意向
を最優先に考えます。何でもご
相談下さい。

那覇市首里鳥掘町4-57-3

TEL&FAX:098-885-8205

http://w1.nirai.ne.jp/yasurai

E-mail:yasurai@nirai.ne.jp

24時間
受付

～ご遺族の心をもって奉仕する～

そうてんしゃ

葬 典 社

*創業30数余年・・・。

*皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるための
お手伝いをさせていただいております。

*ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。

「ゆうなの会」会員募集中です。

ひが たかしげ
(実務担当) 比嘉 高茂

24時間
受付

てんごく

☎098-853-1059

